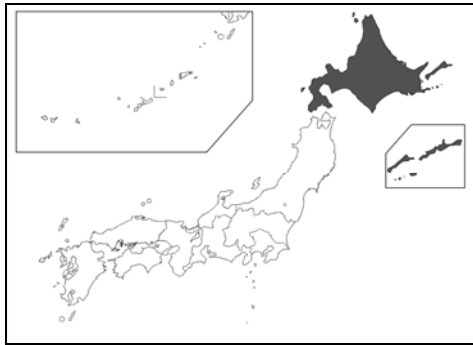


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 8 月)	今回 (平成 25 年 11 月)	
個人消費	持ち直し	緩やかに持ち直し	
住宅建設	増加	大幅に増加	
雇用情勢	改善	着実に改善	

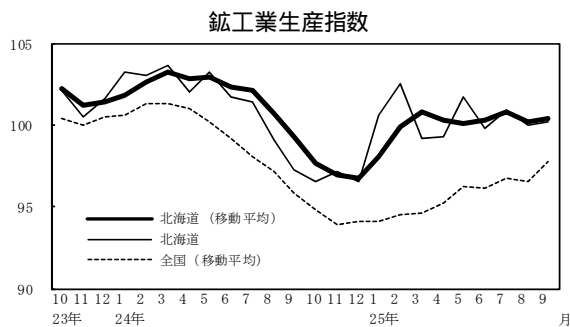
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を下回っている。

7～9月期には、生乳生産は、乳製品向け等が減少したため、総量では964,677tと前年比2.5%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、さんま、するめいか等が減少したため、前年比16.5%減となった。

(2) 鉱工業生産は、持ち直している。

7～9月期には、食料品は、配合飼料の生産増加や悪天候によるビール等の生産減少がみられたものの、全体では横ばいとなった。パルプ・紙は、5月にあった定期修理や生産ラインでのトラブルの挽回生産や道外向けの原紙の生産が伸びたこと等から増加した。電気機械は、スマートフォンや携帯電話向けの無線通信装置や集積回路等の生産が低調だったこと等から減少した。鉄鋼は、生産ラインでのトラブルにより減少した。輸送機械は、4月から5月にかけて北米向けの自動車駆動伝導装置のフル生産を行った反動により減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
食料品	24.2	▲ 1.0	0.0	1.1	▲ 1.2	▲ 2.4
パルプ・紙	11.9	▲ 0.4	2.3	2.8	▲ 1.0	▲ 2.2
電気機械	11.7	4.9	▲ 0.6	▲ 8.4	▲ 1.2	26.9
鉄鋼	7.5	3.3	▲ 2.4	▲ 4.8	3.9	▲ 0.6
輸送機械	7.0	11.0	▲ 5.3	9.6	▲ 7.2	2.7
鉱工業	100.0	▲ 0.5	0.1	1.1	▲ 0.9	0.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

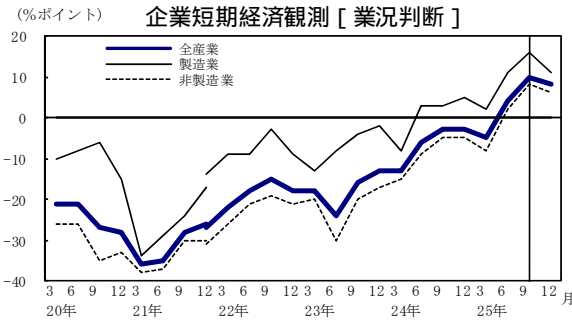
2. 7～9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

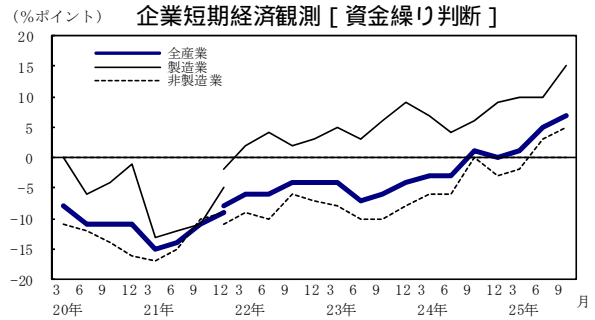
2. 全国及び北海道の太線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

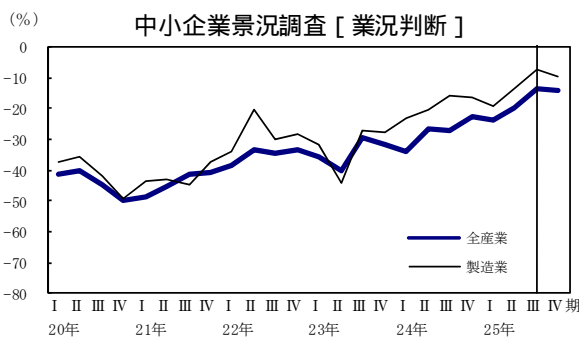
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。25年12月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。

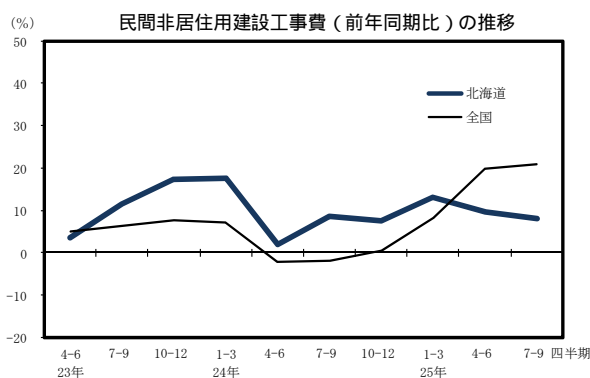


(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。25年IV期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「新築住宅着工戸数の増加にともない家具の受注も伸びている。特に大都市圏でその傾向が顕著である(家具製造業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



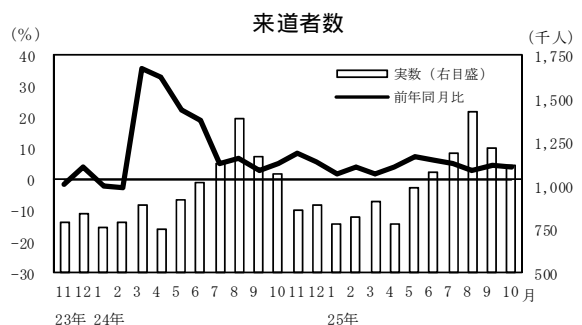
企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度計画
全産業	20.1	4.9 (1.2)
製造業	62.4	1.5 (3.2)
非製造業	▲3.5	8.1 (▲0.4)

(備考) 1. () は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。
2. リース会計対応ベース。

(5) 観光は、緩やかに増加している。

来道者数は、航空機材の大型化やLCC就航の影響の他、関東地方のテーマパークのイベントや富士山の世界遺産への登録等がけん引役となり増加した。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、緩やかに持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比1.8%減、8月は同1.1%増、9月は同0.9%増となった。

大型小売店販売額

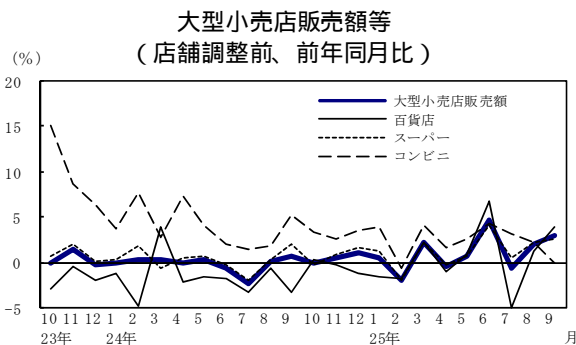
百貨店は、7月は、セールが6月に前倒しとなった影響等から前年を下回った。8月は、気温が高かった前半に夏物セール品を中心に売上げが伸び、気温が下がった後半は秋物衣料が伸びたこと等から前年を上回った。9月は、前年は残暑の影響で秋物衣料が不振であったが、今年は気温が平年並みに近づいたため秋物衣料が伸びたこと等から前年を上回った。

スーパーは、気温上昇に伴い季節商材の売上が伸びたこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

北海道地域の家計動向関連DIは、52.2となり前月より0.6ポイント低下した。

「夏休みが終わり、観光客が減少したことや物価上昇などにより、夜の繁華街の人通りが少ない(タクシー運転手)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

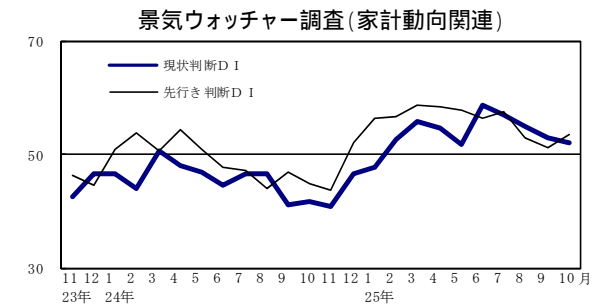
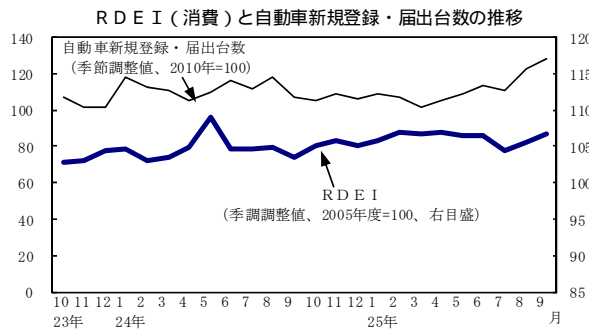


	25年7-9月	25年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	▲0.9	▲1.8	1.1	0.9
大型小売店(*2)	1.4	▲0.7	2.0	2.9
百貨店(*2)	▲0.2	▲4.9	1.3	4.0
スーパー(*2)	1.8	0.6	2.2	2.6
コンビニ(*2)	1.9	3.2	2.3	▲0.1
乗用車(*3)	7.7	0.5	2.9	20.8
(季節調整値)(*3)	10.1	▲2.4	10.3	4.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

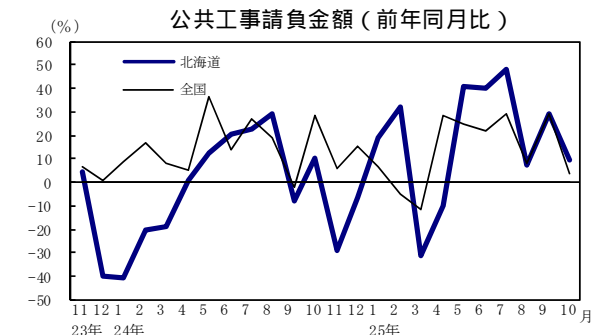
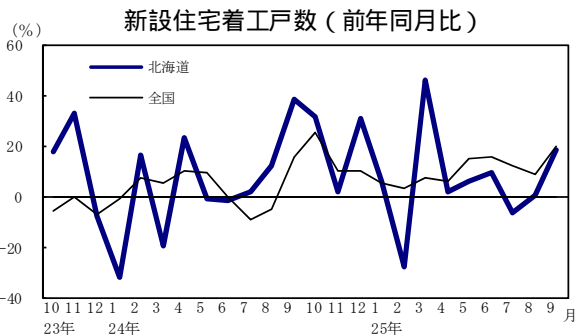
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

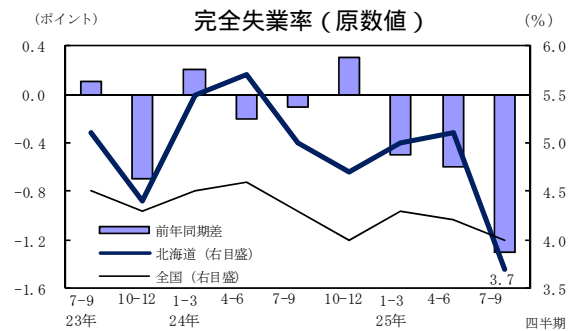
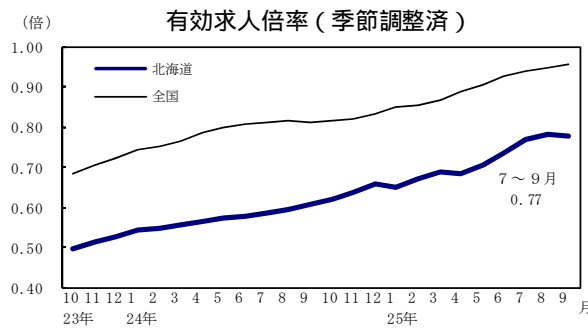


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

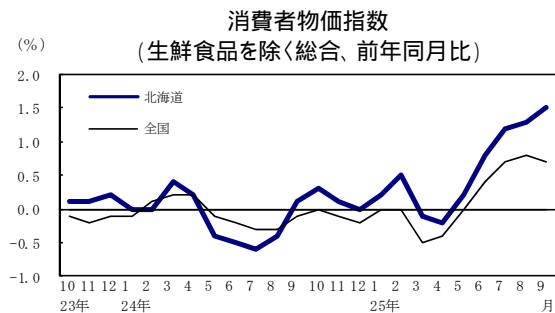
「人材紹介事業において、求人数が急増している。建設業以上にサービス業関連の求人が増えており、業績は横ばいのようなのだが、企業活動が活発化してきている (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年10-12月	25年1-3月	4-6月	7-9月	25年10月
倒産件数	90	110	96	76	26
(前年比)	▲11.8	▲18.5	▲22.6	▲29.6	▲23.5
負債総額	216	343	5,284	126	87
(前年比)	49.6	41.4	1913.3	▲13.3	16.9



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・消費税増税前の駆け込み需要で受注量や販売量が増えている (金属製品製造業)。

<先行き>

・北海道観光は外国人観光客を中心に2～3か月後までの予約状況が良い (商店街)。

景気ウォッチャー調査

(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

